

発行者/認定NPO法人ともに
住所 〒044-0053 虻田郡倶知安町北3条西2丁目
でんわ (0136) 55-5828
FAX (0136) 55-5829
Eメール info@npo-tomoni.com
公式ホームページ <http://www.npo-tomoni.com>
公式ブログ <http://blog.canpan.info/npotomoni/>

第56号



2018年1月12日発行

通信 とも に

法人設立10周年 あのと き①

平成20 (2008) 年3月3日 NPO法人ともに設立

当法人の源流は、倶知安地域精神障害者家族会が平成7 (1995) 年に、共同作業所ワークショップようていを開所したことに始まります。その後法改正*4を契機に地域活動支援センターに変わることになり、そのために法人を設立することになりました。平成19 (2007) 年9月28日、18人が出席してNPO設立準備会を開会し設立をすすめることを確認。同時に発起人会を結成しました。

発起人会では法人名称案(「ここに」などさまざまな案の中で最終的に「ともに」が決まった)、定款や役員候補の選出など、具体的な法人の形をつくっていきました。

同年11月29日設立総会を開き、満場一致で法人設立が決まりました。翌年の3月3日、北海道に設立登記の申請をし、NPO法人ともにが誕生しました。

設立から10年。当法人はさまざまなことに挑戦してきました。その歴史を文献やインタビューを通して振り返っていきます。



NPO設立当時撮影したワークショップようてい。現在グループホームよこび住居である。



NPO名称案のひとつ「ここに」は、現在グループホームの一つで活用している。

精神科医 土田正一郎の



診察室で考えていること(仮)

その45 学ぶということ

学ぶという言葉は「真似る」の転訛であるところから聞いた記憶がある。それはそれで間違いではないと思うが、いつでもどこでも「真似る」対象が存在するわけでない。無人島にいるとか、その領域の最先端に立つとか、人類が自分以外絶滅するとか、留置所に収監されるとか、数え上げればいくらでも危機は控えている。可能性があるのだから、それなりに備えておいたほうが良い。記憶してそれを吐き出すことを学ぶと考えるのは、学生時代限定だったはずなのに、まだしぶとく私の価値観の中心にいる。ええいっ、邪魔だ!

ともに顧問(自称)

各事業報告~12月27日現在

- ◆障がい者就労支援事業所 ワークショップようてい 契約/移行2人、継続B22人 見学/0人 体験/1人
- ◆グループホームよこび 利用者/21人(定員22人) 見学/0人、体験/1人
- ◆法人会員 正会員20人、賛助会員 団体2 個人89人
- ◆寄付物品 牛乳パック 手芸材料 お米
- ◆今年度寄付金 のべ27人 594,892円

編集後記

今年もよろしくお願いします。前号「注目されとも」の表で、NPO法人ハッピータウンさまの項目が一部欠けていました。正しくは「NPO法人ハッピータウン グループホームやさしい家族(栗山町)」です。訂正してお詫びいたします。申しわけありません。(かわさき)



北海道コカ・コーラボトリング倶知安営業所さまより12月21日、今年も倶知安町社会福祉協議会を通じて飲料を寄付していただきました。コカ・コーラ、コカ・コーラゼロのペットボトル、Qooのリンゴ味の缶です。ありがとうございました。



今月の一枚

みんなで企画し楽しんだ
クリスマス会

手づくりケーキ*1も!

12月23日開催・撮影

新年のご挨拶

理事長 小林敦子

地域の皆さまに支えられ 法人設立10周年を迎えます!

新年あけましておめでとうございます。

“NPO法人ともに”が、倶知安地域精神障害者家族会を母体として産声を上げたのが平成20年3月3日でした。「光陰矢の如し」~本当にいつの間にか10年です。どれだけのことを積み上げてこれたのか、障がい者が地域で暮らす応援をできているのか、正直自信がありません。地域との連携もまだまだで、足りないところばかりが目に着いてしまいます。でも、利用者と職員の笑顔、そしてどの人も自分の意思を伝えられるようになってきた変化(成長?)を感じた時に、“ともに”の成長も実感しているのかもしれない。世界が注目するこのニセコ地区で、障がい者も高齢者も子どもも誰もが生き生きと生活できる共生社会づくりに貢献していきたいと気持ちを新たにしています。

法人節目の本年が、皆さまにとりましても幸多い一年になりますようご祈念申し上げ、新年のご挨拶といたします。



じゃがいも“さやあかね”在庫あります! お問い合わせは当法人へ

K. S. C. Juntos サポーターズカップで準優勝

12月23日に札幌市北区体育館でおこなわれた「第8回ソーシャルフットボールサポーターズカップ」にK.S.C. JUNTOSが参加しました。



これに先立ち12月1日に、ともにカップにも参加した「難勝FC」、そして倶知安西小学校サッカー部と練習試合をしました。

そして当日のサポーターズカップは、当事者のJUNTOSとサポートスタッフチーム「JUNTOS United」との連合チームで参加し、見事準優勝になりました！

全12チームが6チームずつに分かれ、リーグ戦は4勝1分0敗でリーグトップ、決勝はチーム「さわやか」に0-2で敗れましたが、平成29年最後の大会を良い成績で終えることができました。今年も勝利を目指してがんばります！

講演会・研修会活動 みん学～ストレスと適応障害

今回は適応障害について、倶知安厚生病院精神神経科の嶋岡修平Dr.の講師で学びました。

仕事や社会生活をしているとさまざまなストレスがあり、ます。それに適応しようと努力しても、うまくいかず生活に支障が出てくると適応障害を発症することがあります。

症状はうつ病と似ている点が多いですが、適応障害は気分の移り変わりがあり、基本的にはストレスの要素がなくなれば、次第に普通に過ごせるようになります。

嶋岡Dr.によると、適応障害になったらまず休養が必要で、休むことで自分のことを客観的にいろいろと考えられるようになり、いつの間にか治っていることもあると話しました。ディスカッションで土田正一郎Dr.は、過重すぎるストレスを受けるような環境では、自分の健康を害するまで適応する価値があるかを考える必要があり、それを客観的に導くのが精神科医の役割かもしれないと言っていました。

今回は新年1月22日、土田Dr.の「精神障害と笑い」です。



障がい者就労支援事業所 ワークショップようてい クリスマス会 写真ギャラリー



「花豆を箸運びゲーム」*2 決勝は5人一斉に対戦。接戦でした。



利用者、職員が寄付した景品、その数80個以上にのぼりました。



幹事としてがんばった3人。本当にお疲れさまでした！

障がい者就労支援事業所 ワークショップようてい 今年も雪と闘ってます！

今シーズンはいつもより早く根雪になり（直近の札幌市で11月18日）、12月に入ると連日大雪に見舞われました。12月21日現在の積雪量は118cm、降雪量は390cmで、平年の1.5倍以上という量です（札幌管区気象台のホームページより）。

毎年当法人の建物と請負先の除雪をしている農業部は今季も連日除雪作業をしています。農業部以外の部門に所属している利用者にも一緒に除雪作業をする声かけをしています。

このところ倶知安町内はアパート建設ラッシュで、空いている土地には次々とアパートが建っています。そのアパートから除雪依頼が来て請け負っていることもあり、重要な工賃収入です。一方で雪捨て場が少なくなり、今後捨て場所の確保を考えていかなければならなくなりました。

ラニーニャ現象（太平洋赤道周辺の海水温が低くなる現象）の影響で厳冬という予測もある中、今シーズンも降雪にやきもきしながら毎日除雪作業に励んでいます。



コミュニティカフェ わっくわく ワークショップ利用者 ウェイターデビュー！



ワークショップ利用者のUさんが12月からコミュニティカフェわっくわくのウェイター*3としてデビューしました！夏から利用者の昼食時に「お冷や」を配る訓練を重ね、この日に備えました。初日は緊張していましたが、少しずつ慣れてきたようで、する作業は徐々に増えています。

みなさんもカフェに来店したときは、活躍をあたたく見守ってくださいね。

Uさんの今後の活躍に期待しています！

障がい者就労支援事業所 ワークショップようてい 小樽高等支援学校、余市養護学校を見学

12月13日、私たちは小樽高等支援学校と余市養護学校を見学してきました。ワークショップようていでは高等支援学校の卒業生を数人受け入れていますが、学校でこういった授業を受けているのを知りたくて今回の見学を企画しました。

小樽高等支援学校は生徒のみなさんが私語なく真剣に学んでいました。一方余市養護学校はアットホームな雰囲気、どちらの学校も良い環境だと感じました。

教諭ら職員が細かなところまで工夫して教えていたこともとても勉強になり、私たちも今後の作業支援に活かしていきたいと思いました。（あらい、うえくぼ、さいとう）



商品のラベルを折る補助器具 生徒が活動しやすい工夫の一つ